



大保乙未新刻

俳諧季寄

掌手挑燈

江戸書林万笈堂英氏梓

俳諧手挑燈

目錄

一 四季之詞

但春三月にクハ用ル季有三月に通ハ季ハ右の下に如此黒星と付置之四季共ニ向新

并 年中諸國祭礼

一 雜之詞

一 天象

一 聳物

一 降物

一 神祇非神

一 釈教非釈并兩部

戀コヒ 非恋

迷懷シタクソイ 非迷

居所キヨ 非居

夜分ヤフ 非夜

衣服イフク 非衣

生類シキ

旅躰リョ

無常ムジョウ 哀傷

人倫ジンリン 非人

山類サン 非山

水邊スイヘン 非水

食類シキ

植物シユツ 同高低

器財キザイ 器財付

支躰シタイ 支体付

書躰シヨ

風躰フウ

同字ドウジ 字去之車

同付字之辨ドウフジノハ

月之辨ツキノハ

以呂波寄イロハヨシ 手介於葉大槩

名所ナショ 名所付

火躰ヒ

病躰ヒヤク

同別唸ドウベツギン

賦物取様フツモノトリサマ

花之辨ハナノハ

一發句切字 并發句 歌仙

以上

俳諧手挑灯

凡例

哥一首、三十二字

素より、安来に、くじ、句、妙の、家、は、ま、ま、河、中、の、香、久、山

必、以、何、つ、ま、み、我、也、
篇序題曲流ト云

又、ま、ろ、七、り、ト、交、字、
七、ま、ろ、七、り、ト、
は、十、四、字、を、
上、の、句、ト、云

上、中、合、く、二、を、ト、一、又、字、を、

上の句篇序題にーと下の句曲流なるをその季
又上の句曲流下の句篇序題もあり

詩の姿 六義也 風賦比興雅頌ト云

連歌俳諧ハ哥一首の上の句下の句を二句にかてせり

連句ハ上の句に下の句を附中の句に上の句と照くに附

哥ハ三十六句百員ハ百句す

發句トハ 一季の體既初後の上の句に春夏秋冬ホその時々の
季を入切字を入やすうに句はくすべし 四季の何れ切
字入やうあくの發句の中も末に載りよう味はまらべし

脇トハ トモの句に發句と同季を結び發句の句をとり
うけたり文字ありにすべし 但時作は連句のありははやくはやくと

ワケありたは休生の發句に正月の季うてハつづは正月
の發句に休生の體もさうし 正月ハ正月の季二月三月の季
もすべし

第三トハ 上の句より長くさうくはさうびす一句のたけさうく發句
の体にあうさうさうに二月にける季をすべし

三月にける季とハ正月より二月をにかよりハ季あり
四季の何れにハハ試置星と村並六のつきに後る季也

名残表十二句内十句ノ月

同裏六句内五句ノ花 是をみほひの花と云

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韻法

同裏一折	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花
二折	十四句内	七句ノ月	
同裏一折	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花
二折	十四句内	七句ノ月	
同裏一折	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花
二折	十四句内	七句ノ月	

三折表 十四句 右同断

同裏一折 十四句 右同断

名残表一折 十四句 右同断

同裏一折 八句内 七句ノ花白ひの花と此裏月と

右四折合テ百員也
初ノ二折と五十員ト云

四十四法

百員の初折ト名残の折ト合テ四十四句ナリ

右二折ニ月三ツ花ニツ法百員の

七十二候

百員の初折ト二折ト名残の折ト三折合テ
右三折ニ月五ツ花ニツ法百員の

裏白 六句カ 表斗リスルヲ云
 面白 十二句カ 裏斗リスルヲ云
 十四句カ
 三ツ物 発句股第三マテ三句スルヲ云

月

發句の初句の身と云ふに初表の時ハ初表の月也云々

花

發句の初句の身と云ふに初表の時ハ初表の花也云々

但し一正もハ初表の内也云々

發句

発句の初句の身と云ふに初表の時ハ初表の月也云々

同

初表の時ハ初表の内也云々

同

尺取の初句の身と云ふに初表の時ハ初表の内也云々

同

連中の時ハ初表の内也云々

同

連中の時ハ初表の内也云々

會席

文彦に初表の初句の時ハ初表の内也云々

連句

初表の時ハ初表の内也云々

一順トハ

教句より去席の人教有る第一句ツとあるなり

再遍トハ

右の人教の句又一卷より世にあり

聯トハ

去及秋冬之句ツと及冬二句ツと意之句等皆死
源とあり

今声トハ

句と考る夢にこころをとり

回嶋トハ

去人より二句も三句も法もとすなり

獨吟トハ

かせんとも百ねんとも去人よりとすなり

両吟トハ

何れも二句とすなりと吟又吟も何れも

前句トハ

我て付去人の句なり

遅吟トハ

句何りのおそきなり

秀逸トハ

と分れて独句なり

巻頭トハ

教句なり

添削トハ

一卷の意と字通へり

即点トハ

お迷点の出来り

批言トハ

句の何れも字と字通よりとあり

加筆トハ 句の初めを添へて去添ふるなり

褒美トハ 句を充てるるべしなり

筆句トハ 連中のおに批筆よりする句はくまなるも有り
批筆句といふを異ししてのなり

打越嫌トハ 付てくる句かぶして二句をなせしむ

二句去トハ 付句より二句をなせしむ

三句去トハ 付てくる句かぶして三句をなせしむ

字去トハ 付句より三句をなせしむ

五句去トハ 付句より五句をなせしむ

夜季コトや竹田タケノの船フネが着渡ツキワタ月松ツキマツ枕マクラ櫓ユ六句ムツクシに
けか折マ面オモくわくても六句ムツクシなり

七句去トハ 付句より七句をなせしむ

面去トハ 百負ヒツ八面ハツの一面イツとてらと云傳ツ表ウラも下シ面オモ裏ウラも下シ面オモといふ

折去トハ 百負ヒツ四折シツの二折ニツとてらるるなり

一ツ二ツ四ツ八ツトハ 形カタ、種タネを以もつて百句ヒツにいつるといふ教オシあり

訓に四ツ有りのハ音も四ツ有

百子万のこゝり列音
うりて六面をり

名所 國名 在名等 或ハ官名 苗字 人の名などを呼ぶ

名所ハあゝ水辺山類ハあゝ水辺の躰を遁く

時々の草木菓旬段食物にあらはるる季ハ持たる植物

とのぐまぐま魚鳥獸ホリ食物にあらはるる其季ハ持たるる生れ

のぐまぐま紋所或ハゆるいも季ハ持たるる躰ハのぐ

るる

秋奠 春 二度の進とも春 後とも秋

親父入 春 二度あはれも春 後とも秋

雛 三月 二度立れも春 後とも秋

峯入順 春 二度あはれも峯入と斗ハ秋

古代より初表の内嫌ひ来る物の中に古人の名の事聖賢

公家武家或ハ歌人儒者医者町人百姓能役者職人等

の神祇釈教意無常迷懷衰傷等にあらはるる古人の名

表の内苦^クか^ハ以^テ尤在^ルごとくすべし同名所の事神祇秋
教憲無常迷懷等にも^もさるる名所並國名町那^ナ等表乃
内苦^クか^ハ以^テ旅^{タビ}体右同断

野々口立甫夜話云七十二候花信詩抄等之季俳諧取捨
有事也詩歌を引も同断七十二候に蜻蛉鳴^{トビ}夏詩小鳴蛙
秋^{アキ}の^ノも^も連俳^{レンハイ}もに春之和哥に牡丹春花信棟春これ
らと連俳^{レンハイ}もて夏^{ナツ}之^ノ此^ノと^モを^モ以^テ詩歌候と引或^ハ

詩書等^{シショ}も異様ある季と見出し俳諧と錯乱すべし
當時の四季正月元朝より極月乃至細々委^レ此書に記置
あり不通成^ル季不用

餘^{ヨリ}奥^{ウラ}の事古来^{コライ}ありき^キありき^キといふのころより百員乃^ハ舉^ト
句^クに發句ありて常の折るるごとく句を繼て表八句裏十
四句月花并^ナ公嫌等常の百員の法式少も違へし^シ
百員結^{ムス}ひ次て續^ツ二百員或續二百員と呼也

百員に一句の物も餘真か又出に

但し余真くく二句去三句去の物ハ式に六五句去七句去面去折去物とあく三句去とす

俳諧手挑燈

○四季之部

春 大皞ダイコウ帝テイ句ク芒マウ神シン 蒼天 東君 詔先

夏正カキホシ

正月

大簇ダイソク律リツ 立春リツフネ 節セツ 雨水ウヰノミ 中ナカ 初陽ハツヨウ 青陽

孟春 陬月ソウグヱツ 睦月ムツキ 端月タングヱツ 初冬月

いとし月 冬月

元日	元朝	元旦	元三
雞旦	改旦	叔氣	聖節
履端	年始	年頭	改年
甫年	新正	三朝	三始
三元	復新	新春	子代の巻
君の巻	徳代の巻	四方の巻	花の巻
君の巻	うぶ乃巻	けさの巻	早の巻

あむの巻	日の始	多の巻	乃き年
あむの巻	年立くる	四方拜	天子東西南北を
朝拜	朝賀 奏賀 奏端 群臣	腹赤贄	紀後
天子の巻	天子と元朝の巻	氷乃様	元朝おとせり時ハ
屠蘇	天子のかせり小女嘗てあり	井開	元朝おとせり時ハ
國柶笛	天子の巻	祇園削掛	元朝おとせり時ハ
宮前	年徳神	年神	年棚

福鍋

惠方棚

掛鯛

福藁

押鮎

注連飾

年男

庭竈

惠方

初鶏

齒朶

数の子

楪

俵子

初霞

齒固

かんと祝

大服

にー肴

初空

穂長

田作

鏡餅

喰積

太箸

裏白

開豆

初曆

曆開

少玉

御慶

門松

但飾 うらうらう 松大飾

雑煮 ワリモノ 貝いしびこぶ 大こん 羊段 こんとを 松を

蓬菜 うやわらうり 松 榊子 松 木かきるといふを元々の

福寿州 えんが州 福 元々の

宝船 福元日 書 吉書 試毫 筆始 初硯

万歳 福引 初夢 美志比也

弓始 射的 初始

美志比也

店卸 蔵開 吹初 松囃 彈初 舞初 謡初

宝引 毬打 ぬり 水祝 鳥追 初賣

若餅 葩煎 水飴 春駒 松の内 初買

大黒舞 名ひい包 猿まじり 船乗初 湯殿初

春永

歳旦開

節振舞

羽子

初芝居

初程云のうりり

懸想文

糸つる初まふり

馬乗初

三ヶ日

鏡開

六日年越

若菜摘

忍ふはむ

とをみく摘

七種

佛座

鼠薺草

藜藿

白馬節會

白六陰表八陽陰陽和合と後以仍白をまきと留るなり

踏歌

男ころろ十五音 わりれえりことりかあうりふてはるイ

三

四

三

三

加治カヂの縁縁 臨みと舞小橋とひて花とさうらう
初子の日子初子の日子

初卯ウツの日日 恒に若多り
箕面の富突トミツキ 七日

十日多びす大宮大女王祿と終ふ八日
女叙位ナヨジヨ 同上

卯杖ウツ 初卯の日日 柵柳柵柳 木入木入 寸切寸切 柵中柵中 なる

常陸帯トギ 神事神事 麻津麻津 のみちのみち 女女 のありのあり 八八 敷多敷多 の時の時 その男その男 ももれももれ 名と

縣召ケンシヨウ 除目除目 のいふいふ 正月正月 十日十日 よりより 千千 二月二月 までまで 所所 委委 の人の人 成

御連歌ミツラガ 十一日
武具鏡開ブクキヨウ 止止 十一日

左義長サダキチ 十五十五 日日 爆竹バクシヤク
綱引ツナヒ 十四十四 日日

大内オホウチ のいふいふ 玉龍打タマリウチ 十一日十一日 樹木樹木 の呪の呪

湯去ユク 上元日ウツギ 十六十六 日日
粥占カユウラ 十五十五 日日

賭弓カシ 十八日十八日 弓場弓場 殿殿 して
小豆粥アヅキカユイ 祝祝 同上

又又 不不 踏踏 破破 の字の字 三三 白白 去去
骨ホネ 正月正月 廿廿 日日 田田 金金 をを 入入 けけ 養養 業業 とと 味味 じじ

御新ミカマキ 友友 蔭蔭 と
街忌キヨキ 十六十六 日日 よりより 廿廿 六六 日日 までまで

やぶ入ヤブイ 廿日廿日 後後 敷敷 入入 又又 養養 業業 とと 味味 じじ

骨ホネ 正月正月 廿日廿日 田田 金金 をを 入入 けけ 養養 業業 とと 味味 じじ

三

暖ノド 独活トコノキ 雲雀クモドリ 畑打タテ 徐寒シヤン 蛭ヒル 兒花コノハ

遲日オソヒ 鱒マス 防風フウフウ 鶴ツル 畑返タテ 暮寒ムシヤン 芥カイ

氷解ヒヤトク 凍解トウゲ 鱸ササギ 土筆ツチヒ 鮓膾ササギ 種物タネモノ 烏芋カウモ

鶯鳥ウラハ 春雨ハルノアメ 牙飯ウヂ 蜺ヒナ 芽花メノハ 海雲ウミクモ 野老ノロ

角ツノ 蓮の根レンノネ 猫ネコ ぬるヌル 煮ニ 長閑ナガヒラ

玉江咲タマエサキ 鳴鳥ナリトリ 猫の妻ネコのメ 田タ 雑菜ザツサイ 魚氷イサヒ 水ミヅ

水鳥ミヅトリ 野大根ノオオネ 若和布ワカフ 三葉ミツハ 獺魚ノブナ 鳥トリ

罌粟ケシ 落フキ 木の芽キノメ 黒鳥芋クロトリノモ 根白草ネシロクサ 麗ウツクシ 菠薐ホウセン

鹿尾

鶯菜

薺

青鱧

蔓

干鱈

酢蛤

草萌

膏雨

白魚

東風

今年

春あけぬ

春あけぬ

春あけぬ

春麻気氏

けしき

椿

二月

夾鐘

驚蟄

春分

仲春

陽中

如月

令月

衣更着

梅見月

小草生月 初花月

中和節

吉野の餅

同上

春日祭

水間祭

行基祭

遺教經

常樂會

柱炬火

比良八講

浅間祭

光野御忌

道明寺祭

踊念佛

文宣王

二月堂の行

初午

井戸あり

初午

くろくふ 赤坂ホと伝承は
備へしやりのあり

列見 十一日公卿 弁 少納言
外記 色と冠はむさ

大改直
くくめ

社日 春分前後
後の戌日

八日 慈母の社 翁雨
社日のあかり

治尊酒 社日に酒と枕を
耳の音をと流る

新の能 七日より
十日日まで

湍漿會 十五日 社をなす
仏の列

彼岸 中より二日め時正とも云
渡のながんはたあり

積塔 十六日 琵琶法師修ス
光孝天皇の皇女乃

忌目 ちうり 氏神宮に産民の
友助る依り 恩と謝に

帰鴈 社の名物
せ、けり

麻 下葉 けりふひ
ふかきわらわ

燕 舌を けをく
は、は、乙を

蛙 ぐるぐる 井の蛙 毒蛙
あつふ 井の蛙 毒蛙

虎杖 くのこく
とろ

水葱摘 花ハ
出替り

初雷 虫が雷
初あひる

焼野 畑やく 畑やく
山を焼やけぬ

焼中 焼中
す、ろの

蛇 穴といはる

比虫 穴を物
あ

蝶 けり羽のふ
美らふ白ふ

苗代 種井 種浸
種府をた

かぶるカブト

餅花煎

角落鹿

茅のチガハ紫ムラサキ

鳥の巢

みどりあのみ

五加木ウコギ

藍アヲムク

銀杏イテウの花

二日ニヒ灸ヤキ

麻アサ

松マツのノ香カ

彼岸ヒツリ櫻

菜ナの花

大根ダイコンの花

八重ヤチ櫻

花ハナとハナのハナ

かたてカテテ糸

虻ハチ

初ハツ櫻

初ハツ花

蒲ハス公キミ

若紫ワカシ

蜻トビ

馬ウマ刀ヤ

狗脊コウキ

杉菜スギナ

孕ハラム鹿カ

鱒マス

田螺タナホ

枸杞クキ

接木ツギキ

孕ハラム雀スズ

蒜ニラ

胡葱コシ

野蒜ノビル

接穂ツギホ

雀スズの子

蕪ニラ

蒸鱒ムシカ

引ヒキ鶴

引ヒキ鴨

まろマロ

鳳巾オウホリ

引ヒキ鶴

引ヒキ鴨

三月

姑洗コヒシ律リツ

清明コウメイ節セツ

穀雨コクウ中ナカ

季春キシュン

中和

花飛

竹秋

窈月ウツク

禊月ケツ

弥生

いやさひ 様月

上巳 三日 桃旦 重三元巳

雛 大裏雛 紙むね 柳うらり

曲水 三日 曲水の宴

雛 紙むね 柳うらり

沙干 俗者かま 雨川

鶏合 園考

寒食 二月の三日 寒食の粥

巳の日 巳日川辺

須戸の枝 源氏 經供養 二日 天王寺

高雄法華會 十日

善導忌 十四日

壬生祭 十四日 壬生の仏

嵯峨大念佛 十五日

千本念佛 寺中のもの

御身拭 十九日 御身拭 汗あがり

人麿忌 十八日 御影供 廿一日 高橋女詣 廿二日

吉野社會式 十日 浅草祭 十八日 三社 江戸浅草

梅若詣 十五日 順の峯入 送の若入 初と暮入

阿蘭陀 阿蘭陀 入洋する

鞆 鞆 鞆

春菊	東菊	犬櫻	長春	辛夷	葉柳	葉櫻
檜の花	金鳳花	金錢花	九輪草	木蓮花	李の花	杏の花
小梅の花	仙臺萩	茗荷竹	母子草	丁子草	小手毬	竹の秋
木瓜の花	春蘭の花	蕪枋の花	通草の花	楊梅の花	杏子の花	林檎の花

馬蘭	櫻鯛	櫻貝	柳鶯	小鮎	八十八夜	山吹衣
若菰	上り築	鷹の巢	呼子鳥	櫻魚	三月尽	三月尽
五形	柳葉魚	郭公巢	やぶ小鳥	炉塞	火燧塞	火燧塞
小米花	椀うぐい	鳶の巢	引跡鶉	火燧塞	火燧塞	火燧塞

玉卷葛

罌粟花

椶の实

桐の花

茶の糸

風車

さぶま

玉卷芭蕉

綿種蒔

ぬきうす

あちあひ

うはやま

あうちあく

菅の臺

古茶

花柚

薔薇

岩藤

一八

鳶尾

踊花

蘭の花

鴨足草

苔れ花

柿の花

手毬花

わくくま

竹の子

岩梨れ花

志の糸

蓮若葉

蓮のつらね

蚊帳

をくろくげ

橙れ花

黄櫨の花

石薺の花

根穀の花

厚朴の花

椶櫚の花

柑子の花

金柑の花

若楓

藪椿

蓼

路

紫蘓

檳柑の花

雲州橘れ花

笋

すのこ

きしくのむ

利根草

紙帳

九年母の花

常磐木の落葉松杉檜

若葉の花

蠅

蠅虎ハエトリクモ

蚯蚓虫ミミズ

鹿の角袋

蚤フシ

蚊ハエ

子又ホウフリスシ

擁劍カサれ子

蛭ヒル

飛蟻ハアリ

枝の蛙エダノカエル

あまうりアムリ鱈カサ

初鯉ハツナギ

鯉釣ナギ

蟹醬カニヒシホ

あわ鳥アワトリ賊イカ

蚰蜒ゲダク

鴈カモ鳩トビ

鶴鳥トトリ

青鷺サギ

一夏籠イチナツコモ

夏行ナツユキ夏花ナツハナ百日行ヒヨクヨク

安居アソグ夏行ナツユキ

夏書ナツガキ

五月

菰實コモ芒種マウ節夏至マウ仲夏ナツナ茂林モリン

皋月カサ早苗月ササメ鶉月ウズラ橘月ダイダイ

菖日シヤウジツ五日

端午タマシ艾虎アヒ蒲人赤靈ヨシウロ

幟立ノボリ紙小幡カミコファン

甲飾カウシ甲人形カウシナガタあやめアヤメあやめアヤメあやめアヤメ

菖の節供シヤウノセウキあやめアヤメあやめアヤメあやめアヤメ

あやめアヤメあやめアヤメあやめアヤメあやめアヤメあやめアヤメ

粽チマキあやめアヤメあやめアヤメあやめアヤメ

角糰カクダマ

粉團射コメダマ

藥日ヤクニチ五日

藥玉ヤクダマ

長命綫ナゲノイシ續命綫ツグノイシ粉絲コメイト

藥草摘ヤクサウ

競駢ケウヘン百艸摘ヒャクショウ

百草と戦カキ 勝負ハクの事と合ア

騎射カキ 五日右道のまきつらひカキ 左道のまきつらひカキ 楊の尻と

引おろすとひをりカキ 水馬カキ 五日あちとるカキ の目とひをりカキ お後とあき事カキ

皂車カキ 同船の至カキ 生と事カキ

印地打カキ

賀茂の競馬カキ 五日くカキ 鹿カキ 五日カキ きつひカキ やふカキ

住吉御田植カキ 廿八日

生玉流鏑馬カキ 五日

伊勢山川祭カキ 八日カキ 山田御田植カキ 同上

山田御田植カキ 同上

有無の日カキ 廿五日カキ 終日カキ 済例カキ 伝奉カキ ちんカキ

有無の日カキ 廿五日カキ 終日カキ 済例カキ 伝奉カキ ちんカキ

祇園御輿洗カキ 晦日カキ 夏至カキ 五月のカキ 中カキ

帷子カキ 裕帷子カキ

清梅カキ 菖カキ 虎カキ の涙カキ 雨カキ 共カキ 鷲カキ 川カキ 鶺鴒カキ 羽カキ のけカキ 舌カキ と去カキ

寂勝講カキ 清凉殿カキ 行カキ

半夏カキ 生カキ 夏至カキ 入梅カキ 梅カキ のカキ 梅カキ のカキ

五月雨カキ 五月のカキ 中カキ

半夏カキ 生カキ 夏至カキ 入梅カキ 梅カキ のカキ 梅カキ のカキ

青梅カキ 菖カキ 虎カキ の涙カキ 雨カキ 共カキ 鷲カキ 川カキ 鶺鴒カキ 羽カキ のけカキ 舌カキ と去カキ

入梅カキ 梅カキ のカキ 梅カキ のカキ

羽カキ のけカキ 舌カキ と去カキ

黒鴨カキ 羽カキ のけカキ 舌カキ と去カキ

雌カキ 蜺カキ 舌カキ と去カキ

黒鴨カキ 羽カキ のけカキ 舌カキ と去カキ

雌カキ 蜺カキ 舌カキ と去カキ

鶴舌カキ と去カキ

百合 あやめ 花のこゝろ

田植 あきくさ 田のこゝろ

早瓜 あきくさ 白あり

鏡響草 あきくさ 花のこゝろ

末摘花 あきくさ 紅の 金銀花 あきくさ 冬

蝸牛 あきくさ 獣狩

照射 あきくさ 花のこゝろ

麥川 あきくさ 麦切

覆盆子 あきくさ 花のこゝろ

紫陽草 あきくさ 四つ葉

忘草花 あきくさ 萱草 真菰川 あきくさ

標 あきくさ 菖蒲 あきくさ

鯢狩 あきくさ 花のこゝろ

入梅 あきくさ 花のこゝろ

入梅 あきくさ 花のこゝろ

蒼木焼 あきくさ 花のこゝろ

榎の木焼 あきくさ 花のこゝろ

石菖 あきくさ 藻の花

天南星 あきくさ 南天の花

夏菖 あきくさ 藻と刈

早松茸 あきくさ ひもじ花

枇杷 あきくさ 藻刈舟

早初茸 あきくさ さかしくれ花

若竹 あきくさ 萍の花

生胡桃 あきくさ 下野花

天蓼 あきくさ 菱の花

青山椒 あきくさ びやうれ花

菰子 刈葱 根芋 若草 青田 胡瓜 蘭

栗の花 茨の花 榊の花 法をい 田舎取 稗時 稻時

桑の實 花菖蒲 朝露草 青小豆 粟時 荏時 玉簪

六月法師 花柘榴 和布と刈 青くくけ 馬齒草 胡麻時 ちくま

梔花 藻打 鮎 藜 苧 蟹 黒さく

蚊帳艸 水麩 水馬 蠅螂生 水鳥の巢 蓐 白さく

合歡の花 水鱧 水雞 蛇衣脱 鴨の浮巢 鳧の羹 白さく

あけぬ刈 干鰓 常々る入 蜂の初夢 蛆 毛むし

沖のあけまぐらんを黒さくといふ
白くくると白くくると云

六月

林鐘律 小暑節 大暑中 季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節 一日 氷の貢 氷室 氷餅祝月

一夜酒 麻地酒 醴粉酒 富士詣 一日ヨリ 精進

六月會 四日 祇園會 七日 御躰の御卜 十日 林派友の友人

除河の祭十五日にあり

津島祭 十四日 執田祭 十四日

嚴嶋祭 十五日 竹生島祭 日 博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

御手洗詣 廿日ヨリ 鞍馬竹切 廿日 伊勢祭 礼日ハ

愛宕千日詣 廿四日 大坂座祭 廿三日

賀茂氷無月之能 廿日 橋立祭 廿五日 住吉御祓 日

唐崎祭 廿日 施米 東山北山西山をくらの山さのたつたをき倍の

小蠅を以神 大早の昔ハ悪鬼守方に危めくる 大板 廿日 後川

夕顔 テヒヤウ

撫子の花 カサシロ

蓮 ハス

百日紅 ヒヤクニジツコウ

海松 ウミマツ

射干 シヤカン

夏虫 ナツムシ

蠨 トリス

神鳴 カミナリ

青瓢箪 アヲヒヤウタン

南瓜 ナンキョウ

蒜根 アヒ

江戸初鮫 エドハハツシヨウ

せこい膾 セコイカイ

石尊赤 イシソウアカ

極暑 キョクショ

綿の花 ワタノハナ

納豆造 ナトウゾウ

炎天 エンテン

浄暑 ジョウショ

葛の花 クワノハナ

夜鮫賣 ヨアサダ

沖膾 ウキカイ

上州新絹 ウヅマキ

六月十五日を福降酒と云ふ

六月廿八日相及大山不動

石尊大権現

石尊垢離

糸巻のくもを初

日野

所く積布

菱の花	蕎麥造	日盛	麻頭巾
蘭と刈	奈良漬	日傘	麻羽織
菅と刈	竹の皮抜	温風	振舞水
藍と刈	昼顔の花	風薫	水引粉
白麻刈	麒麟草	藿乱	香薷散
蒲の穂	けりごり系	葛水	砂糖水
青蕃椒	扇の尾花	水飯	洗ひ飯

夏枯草	茗荷の子	洗鱸	海月取
干飯	道明寺水	洗鯉	金龜虫
青鬼灯	鳥糞搗	煮冷	雲雀鷹
鷹羽はくみ	杏	杏	鷺草
林檎	杏子	河	李
赤草	澤泻	風蘭	凌霄
蛸	早桃	楊梅	眼皮

七

二二

鯖釣

夏の別

夏果る

夏の限

夏まで

秋を隣

秋をき

こぬ秋

秋と結

秋

少皞^{セウカウ}帝^{テイ}蓐收^{ソウシュウ}神

爽頼

旻^{ミン}天

白蔵^{ハクザウ}

金商^{キンシヤウ}

七月

夷^イ則^{ソク}律

立秋^{リシュ}節^{セツ}處暑^{チュシュ}中^{チュウ}孟秋^{モウシュウ}

桐秋

初秋

首秋^{シュウシュ}

明景^{メイケイ}

桐月

文月^{ブンゲツ}

蘭月

女郎花月

七夕

七日御節會 硯洗机洗 七度喰 星の手向 詩哥連能七夕會
星のより一物 星ヤウリ 牽牛織女 女七夕 男七夕 星の契
あまのなをや七夕あまの娘をこころをわめこころの娘 百子ひめ

あまの川

銀河 銀浪 銀漢 月の 星合の濱
浪まらるる川はくみ

かさねの橋 雁鵲の橋

紅糸の橋

妻迎船

乞巧奠^{キツコウテン} 産の立琴

乞巧針^{キツコウシン} 七孔の針 糸の向

七種の船 草花と舟と飾七夕たむくま 萩野良尾をな
着のむ 女彦を 着まらぬ 撫子 くれと秋の七ことし

七箇の池 七箇の水に
星を移し

飛鳥井家七夕の鞠

池坊七夕の立花

荷前の使 天子より諸願
勅使きたり

文殊會 八日 六道参 九日

清水十日詣日 槇買 おのゝのたき
渡り更ぬに飾

盂蘭盆 盆供 諸寺施餓鬼 一日より
十五日迄

梶川葉 七夕のあけふに
せしむる

御門跡篝花 あけふに
他物あり

撰待 門下系よりあけ
は来の人よりあけ

逆の峰入 本山七月
當山八月

聖霊召迎鐘 同上

焰魔参 十六日

盆市 聖霊蓬
聖霊竹

芋売 土器
手向物

むらひ火焼

靈祭

聖霊棚

玉棚

棚經

根芋 枝豆 青さくけ いぐら

粟穂 稗穂 稻穂 瓜の馬 茄子の牛

青柿 青梨 青桃

青尾草

箸

青櫃

燈籠

送り火 鹿ヶ谷ハ
松ヶ岡ハ 大文字 愛宕 鳥井

十五日

妙法 舟岡ハ 舟形

三井寺女詣 七月

燈籠

夏書納

經木流

題目踊 崎

中元 七月十五日

盆の法水入

伊勢山田

扇置

生身靈

父母おとく人達の飯

刺結とあけと

新綿の奏 十六日 貢物

小結 糸角力
初司 古儀入

踊 小町おどり
いせおどり

一葉 桐の葉あり

のび おろし本萩

萩一多つたて 萩若くより 萩之い本萩わ
萩若くより 萩若くより 萩若くより 萩若くより

萩若くより 萩若くより 萩若くより 萩若くより

築萩 百元萩

一株 萩若くより 萩若くより 萩若くより

薺 牽牛花 朝白

槿花 げけの

槿花 一日の栄あり

とほく 女郎花

花とに七 男良花 花とに七

薬師 柳 柳の葉

益母草 干 益母草

桔梗 みのひあき

蘭 花とに七

蓮の 実飛 蓮の葉

へん 花とに七

藻に 虫の 鳴る

秋の 虫

虫 鳴る

蓑虫 鳴る

鳴る 虫

蝻 蟋蟀

蝸 夕暮

又 蝸

蝸 夕暮

螢 秋の

秋の胡蝶

てふはきりつと結ひ

秋津虫

とんがらうやんす

松虫

虫撰 虫合 虫籠

いしつらうはき

鳥屋出の鷹

鷹の山初初を指

秋風

初風

鳩吹

鳩の吹まのよとと合

露

あつあつ

早稲

ひれののちや早稲

新涼

初毛

紗る糸

今秋の秋

餞暑

冷酒

冷酒

青蕎麥

冷麥

ぬる麦

あつ麦

常山の花

西瓜

木瓜の実

鉈豆

くさしの虫

番椒

桃の実

犬子艸

小車花

柳散

黄柳

芭蕉

茗荷の花

桐

糸のち

糸

鬱金の花

楸

毘麻

焼米

やいばち

曙

ちんすこ

垣豆

すまゝ糸

花火

槐花

絲瓜

觀音草

茶調虫

夕負別當ニラカホト紫葛エヒカツラ

八月

朝呂律 白露節 秋分 中秋

壯月

桂月 竹春 朏月 葉月

鴈来月

秋風月 月見月

八朔ハツキ 當日禁中之式有ハツキ

田面祝

田実祝

天中節テンチュウノツ 秋社アキノヤ 秋分アキノヒ 近き戌の日アキノヒ

堺天神祭サカイ 三日

北野祭キタノ 四日

白鬚関帳シラヒゲ 五日 八幡祭ヤシロ 十五日 放生會ハシヤウ 十六日

鶴岡八幡祭ツルカ

阿野津八幡祭アノツ 十五日

豊浦八幡祭トヨウラ 月上

箱崎八幡祭ハコザキ 筑前

宇佐八幡祭ウサ 豊前

深川八幡祭フカガ 江戸

志賀八幡祭シガ 日

司召シヨウ 十一日 系官の六位シヨウ

板鼻八幡祭イタナシ 上州

菅大臣祭スガ

歎活杖乃祭ソウカツシヨウ 歎イノ 杖ノ 乃祭ノ 歎杖刑イノシロ 杖乃祭シヨウ 杖乃祭シヨウ 杖乃祭シヨウ

名を越えたる

秋奠 おきまくり 式法 せきほう

西院祭 せいゐんさい 北日

名月 なげつ 十五夜 三五夜 名高き月 芋名月 二月の月 新月

駒牽 こまけん 良夜 夕月の月 此外月異名月 部三悉 ぶさんしつ 物逆 正月の物 引きり糸の物 摺履 物と引

龍田姫 りゅうでんひめ 秋の色と深まじり 造化の体 非神低 秋に宮 あきのみや 中宮の

いかとふせを 鶴鴛 つるう 後の彼岸 あとのひがん 蛇穴 へつあな

小鷹 こたか 鷹鳥符 鷹鳥の葉がゆ 兎鷄 うさけい 小車 こぐるま

雀賦 すずめふ 黄鷹 わうたか 青鷹 せいたか 鴛鴦 うんおう

山つり鷹 やまつりたか 鷹打 たかうち 鶉鷹 うすたか 鷹とつら

鷹 たか 鷹の合がうらを 鷹に合を法てり秋 鷹の杖 鷹の文

巴鳥 ひさぎ 鷹の合がうらを 鷹に合を法てり秋 鷹の杖 鷹の文

鶉鷹 うすたか 鷹の合がうらを 鷹に合を法てり秋 鷹の杖 鷹の文

鶉 うす 鷹の合がうらを 鷹に合を法てり秋 鷹の杖 鷹の文

小鳥渡 こどりわた 鹿 か 小鷺引 こさぎひ

鷺 さぎ 小鷺引 こさぎひ

澁鮎 落鮎

下築 くらん築

うぶ尻築

薄 名のすき

薄紅葉 産花 けしき 秀麗 なまな

薄 名のすき

薄紅葉

蓼の錦 けしき

葛 名のすき

志々木

紫苑

月草 露艸

花紫 たる

藍の花

鴈来紅 兼雞頭

茴香 けしき

瓜 玉つり

蒲葦 宇治 けしき

錦文字

稻乳 けしき

稻 けしき

八束穂 新米 秋の田

二百十日 二百十日目 東呂子

案山子 木綿取 芋

菜種 牛房引 暮蒨堀

栗川

種瓢箪

牡丹の分根

稗刈

種夕顔

種れを付

稷刈

種南瓜

種れを付

芽萱

種茄子

くらり引

藥堀

鳳仙花

曼陀羅華

茜堀

雞頭花

百部桂

鷄草

金剛草

蕎麥の花

野菊

百夜草

鬼灯

若菘蓐

鴨上戸

木犀の花

縷紅

若菘蓐

うすの心

通草

木芙蓉

葱

うすの心

冬瓜

大豆引

小角豆引

三七花

江鮭

かどらひ

太刀の魚

竹の春

初汐 八月の大汐

野分 八月の大風

はなをみ

花壇 草花

砧 夜打き

九月

無射

律

寒露

霜降

中

季秋

玄英

季商

紅樹

菊天

素秋

舞射

残秋 未秋 玄月 晚秋 涼秋

菊月 陰形 杪秋 夕の月 終る月

のぐち月 本深月 本末の秋 小田刈月

重陽の宴 九日重九 菊且菊節句 菊酒重陽 栗且栗節句

九日小袖 菊重衣 紅葉衣 後の雛 雛かぶりのあそび

足袋 足袋のあそび 切欠 不堪田の奏 七日は後ま田のあそび

桂宮相撲 八日 泉涌寺舍利會 八日

醍醐祭 九日 能あり 御香宮祭 九日 鞍馬祭 廿日 貴布祢祭 九日

生玉祭 九日 大坂 四宮祭 九日 大津 下鳥羽祭 十日 例幣 十日

白川祭 十日 岩倉祭 十日 北山 栗田口祭 十日 方宮祭 十日 河内

岡崎祭 十日 東山 木幡祭 廿五日 鹿谷祭 廿四日 逆髪祭 廿四日

北山祭 廿六日 鳴瀧祭 廿八日 津村祭 廿七日 津国

天王寺一条會 十四日 太秦祭 廿日 小倉祭 十五日

八幡花の頭 廿日 天満鍋流馬 廿五日 大坂

吳服祭 十七日 ちやてき系津国波利祭 高辻室町

度會新嘗會 九月十六日 十七日 勅使立

伊勢御遷宮 十六日 廿二年目御社立替 夜分也

神田明神祭 十五日 日蓮御難れ餅 十三日

住吉の市 十三日 舟の市 住吉孔相撲 同上

後の月 十三夜 二夜月 豆名月 月の多き

菊 菊合目精 更生 席鷺

黄菊 紅菊 紫菊 白菊 大般若 弟州 翁州 砂金 毬菊 承和菊 黄菊

残る菊 十日の菊 兼和年中よりなるもの 瘦く菊あり

紅葉の夜 名木散 柎 楓 銀杏

柚 柿 榎 杉 萩 萩 萩

九 三十四

御所柿 みよところ 又平柿とも云 佛くうり 西寺庵とも云 和州巨勢とも云 せうらん

栗 くり くりの葉 くりのは くりの皮 くりのかわ くりの實 くりのつぶ 椎 しい 椎の葉 しいのは 椎の實 しいのつぶ 菌 きのこ 菌の葉 きのこのは 菌の實 きのこのつぶ

平茸 ひらけ 初茸 はつしほ 柳の皮 やなぎのかわ 木の皮 きのかわ 紅 べに 漆取 うるしとり 芦の穂 あしのほ

黄蜀葵 わうしやくい 紙 かみ 漆 うるし 野山の錦 のやまのにしん 野山の色 のやまのいろ 梅紅葉 うめもみぢ

思 おも 錦繡 にしんきう の林 のりん 漆 うるし 野山 のやま の錦 のにしん 野山 のやま の色 のいろ 木實 きのつぶ

草花 くさな 枯 か 野山 のやま の色 のいろ 梅 うめ 紅葉 もみぢ

草花 くさな 枯 か 野山 のやま の色 のいろ 梅 うめ 紅葉 もみぢ

榉 かき の紅葉 もみぢ 雀蛤成 さざなみなり 蜜柑 みつかん 櫻紅葉 うめもみぢ

枳 かき の實 のつぶ 色 いろ のぬ松 のぬまつ 金柑 きんかん 久年母 くねんぼ

棕 あし の實 のつぶ 椽 せん の實 のつぶ 柑子 かんし 佛手柑 ぶつてい

椿 つばき の實 のつぶ 果李實 くわんり 枳椇 かき め め のその紅葉 のそのもみぢ

柳紅葉 やなぎもみぢ 漆紅葉 うるしもみぢ 荔枝 りし せん せん の実 のつぶ

菩提子 ぼだいし 南天の實 なんてん 仙蓼 せんりょう 皂角の實 さいかく

た た の実 のつぶ 榎 えん の實 のつぶ 松子 しょうし 老母草 らうぼそう

三十五

三十五

うづき

柘榴

苑豆

桐油の實

ひよん

胡桃

漸寒

露時雨

ぬん

露霜

露寒

將寒

霜踏鹿

夜寒

冷ト

長夜

新蕎麥

紅葉鮒

うきまき

お多

葉薑

檜

標

榛

狼獣と祭

榎

柞

更

尾越の鴨

熊栗と榎搦

何首烏

葛蕪王

薩摩芋

木藥子

梅燥

葛梅燻

晚稻

樽田

小瀑江鮒

新酒

中汲 古酒 蒲萄酒

袋

番船

番綿 上方船 小舟 線船 釣船 舟とついでに舟人入付と

茶々興祭

糸糸と於洛中 舟とついでに舟人入付と

住言れ神送

北日

九月尽

暮秋

十

三十六

初氷

葛かき

綿子

縁りじ

寒菊

菊うら

足袋

あがりすけ

鴨鷹

落のり

石落

革羽織

鯉

茶のむ

山茶花

冬木の櫻

鰻

冬牡丹

八手の花

枇杷の花

飯花

飯花のむ

菜ゆ

掛あ

燕引

大根引

納豆汁

水漬

雪ののり。あがり

風本枯き。のり

枯野

落葉

川音の雲

霜

月のあ

初雪

液雨

水鳥

鴨

千鳥

鴛

わちむら

三十九

生海鼠このうし

綱代あらま氷魚いどの魚

夜興ヨキ引ヒキ

妙音講ミョウオンコウ

諸国座頭の祭也十月十四日一郡一の座頭仲間寄合宦列と平一弁天妙音井

の尊像とく種々供物と備へ順番よ
平家あまんとかくり通夜す

黄鐘律

大雪節

冬至

中周正

朔易

霜晨

冰壮

星紀

畧知

芸生

霄氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月 雪見月

朔旦冬至

十一月朔日冬至なれはるは是十年の目

一陽佳節

十月無陽の月より冬至より一陽未復

曆の奏

宮線と添

履と献唐をへ姫より

唐をへ姫より

相嘗祭上ノ卯大和

住吉大神 穴師 鴨 息智 意富 葛城

新嘗祭中ノ卯今年

日前 右の神主宦幣と請取行フ祭あり

豊比明の節會中ノ辰今年の新米神

の初穂と 天子より 神奉らせしめ奉り 天子も召れ臣

殿上の淵醉中ノ丑

長臺の試五節の舞と御覽と

童女御覽卯日清涼殿童女と召れ御覽

鎮魂祭離魂と

空也忌十三日鉢才依夜と忌

大師講廿四日 報恩講一向宗祖師親鸞上人の忌日十二月廿八日

芝居顔見世朔日足揃

の向大法事あつは八日夜

雪垣雪草

髪置十五日 袴着同上

雪車雪の車

栴雪本 綱貫同上

雪車雪の車

霽あつは八日夜 雪吹吹 氷氷 雲雲

氷柱銀竹 寒苦鳥寒苦鳥 鯨鯨 玉子酒玉子酒

鯨鯨 杜夫魚杜夫魚 茶喰茶喰 湯豆湯豆

みそみそ 鮎煮鮎煮 蒟蒻氷蒟蒻氷 風呂吹大根風呂吹大根

多々多々 鮎煮鮎煮 蒟蒻氷蒟蒻氷 風呂吹大根風呂吹大根

多々多々 鮎煮鮎煮 蒟蒻氷蒟蒻氷 風呂吹大根風呂吹大根

多々多々 鮎煮鮎煮 蒟蒻氷蒟蒻氷 風呂吹大根風呂吹大根

弟月 残冬 三冬月 梅初月 春待月

乙子元朔日 乙子の日の初日 臘八日 臘八日の初日

温槽粥 臘八日の初日 事始 関東八日 上方八十三日

御髪上 下午日 天子の御髪を剃る日 着駄の政 着駄の政

天智天皇御國忌三日 佛名 十九日ヨリ 廿一日マテ

加法多由縁 天子より多由縁の事 師走 大寒の日禁中四方の門に

土牛童子の像と立 大寒の日禁中四方の門に 陰陽師と立ると也

榎梨乃勧盃 榎梨のふゆの酒を勧盃の中へさくる 寂勝寺灌頂十五日

大徳寺開山忌廿二日 寒垢離 寒念佛

寒曝 寒曝 餅搗 箕和田鯉

餅花 黄鯰 鶺鴒巢 鶺鴒の巣 早梅

早咲梅 庭鳥 庭鳥 探梅 早咲椿

寒造酒 臘梅 室咲梅 孟宗竹

早椿 室咲椿 寒竹子 年忘

歳暮市

年取物買

煤櫛

煤櫛

古札納

星佛賣

年木樵

節季候

寶船賣

正月の飾物も賣買とせしむる冬

曆元末

弓矢羽子板賣買

節分 立春の前日

吉田の大萩節分

内侍所の御神樂節分

豆打

柀指

厄もどひ

大原雜候寐

長門の夜大原の夜をいふ

追儼 鬼中ひ

衣配

小晦日 大晦日の夜先程乃

大晦日

大晦日の夜大原の夜をいふ

齋宮比繪馬

門松とつとあむ

和布刈之神事

長門国をいふ

毎年大晦日の夜寅の刻

海に四方より屏風と立寄りしとて海底平々たり神主たへまふ

奉れおやうとて荒海とあふより

雜之詠

二季と争句ハ雜也 花紅葉 寒暑ト結句

飛花落葉ト續ル句 又四時不断ナル物ハ雜也

松竹の落葉 米 麥 豆 松の緑等

無名の虫 小鳥 秋 冬 挂実ハ 村雨

薄 藻 虹 蓬生 柗 蛤

淺茅原 芦 角組 春穂 秋 菅 真蔕 早電

豕雲 清水 梅干 蕪虫 梅漆 玉虫

梟 鷺 山鳥 都鳥 鮒 鯖 鰯 鹽物

鳥 鷹の埜 野鷹 離鷹 離鶉 鴨の羽盛

梅壺 梨壺 桐壺 藤壺 鴨沓 舞扇 礼扇

搦栗 軍配團 戸の鳴子 蚊 鼯 布

布曝 右大槩記之余准可知而已

追加

池上千部 長栄山本門寺 毎年三月十九日ヨリ

九品佛千部 武州世田谷領奥村 九品山淨真寺 毎年四月

海苔日待 毎本之月の内二日多月浦へ海苔むかひくくとりふる日

○天象 二句月星天くろく二句去

天 大圓 碧落 虚空 半天 月 異名月の部

日 金鳥 陽鳥 火輪 靈耀 星 北極 北辰 大白星 彗星 流星 彗星

七曜 二十八宿 韃特 織女 各星之分也 日蝕 月蝕 天川

銀河 銀浪 七夕の時水辺にわくは秋 又名所の時水辺に成雜七夕

と無少外の天象

○聳物 一句あとも捨ル

雲 霞 虹 運氣 蜃氣樓 電 稻妻 夜分

遊糸 陽炎 月の暈 富士の烟 淺間の煙

松竹柳草木雨等の烟 霧ハ聳物降物両用也

雨 雪 霜 時雨 吹雪 露 雲 霽

白雨 雪多し

○神祇 三句去三句捨く

伊勢太神宮 日本六千余州 宮 社壇 遷宮 三寸

長官 社頭 社 祭礼 洗米 御師 拜殿

祝言 祠 散米 神主 瑞垣 斗帳 御供

柵 祢宜 玉垣 神託 初穂 社人 榎

千木 湯立 神輿 乙女 鯉木 幣 氏神

神馬 神子 鳥居 鎮守 贅 繪馬 欄

巫 尊 祖天子ノ 小忌衣 神樂 命 祖臣下

木綿袴 御手洗水 膳 也 七五三 鶉羽膏

齊院 賀茂 齊 潔 斎 忌竹指 矢大臣

神宿 川 榎 御榎川 菅 簀形代 叩首 沐ひる

雜

神樂

大前張 小前張 星記
阿知女 採物哥 里神樂

起請 誓紙 神文

丹後

有丹後

かろく 神々鋪

伊勢講 太々講 叅宮

非神祇

惠方

年德

男山

放生川

龍宮

橋姫

山姫

精進

佐保姫

龍田姫

釋教

三句去三句はく 句うても捨

諸佛の名

諸菩薩の名

佛祖の名

諸佛經の名

諸僧法衣

諸の官名

諸宗佛具

羅漢の名

諸山号院号

寺

門跡

僧正

念佛

舍利

精舎

堂

上人

題目

數珠

伽藍

和尚

塔

和讃

拂子

庫裏

長老

談義

經

木魚

方丈

僧都

法問

五鈷

衣

眠藏

能化

論義

獨鈷

客殿

笛

所化

灌頂

帽子

輪藏

出家

鈺

觀念

燕尾

行堂

雜

雜

鉢開	引導	諷經	血脉	坊	袈裟	主座
林香	塔婆	花足	坐具	衆徒	僧	座禪
回向	順礼	看經	持戒	禪定	入定	厨
卵塔	線香	五輪	生飯	天盖	沙弥	頭陀
因果	錫杖	鉢扣	花曼	破戒	禁足	宿坊
六道	彼岸	常香	頓寫	護摩	素絹	沙門
地獄	石塔	柱杖	諷誦	尼	五戒	悟道

功德 非時 齋 流轉 迎雲 來迎 極樂
 曼陀羅 作麼生 結伽跏座 補陀落 須弥座
 三界六道 薦僧 梵論 是衆二百五 百万遍 佛
 非釈教

煩惱 坊主落等の釈の詞 鐘 書記
 賢者の釈名 諸職人の釈名 法印法橋

○ 兩部 作然るも釈ありとも二部を
 一句はくく一句もくも捨れ

雜

雜

帝釈天

辨才天

多聞天

持國天

增長天

廣目天

聖天

大黒天

毘沙門天

摩利支天

如此天と呼ぶる神
此外も西部

山伏

蕪氏 檜來 兜市 篠掛
金剛杖 槍笠 檜杖

梓神子

立願

通夜

兩皮形箱

月待

日待

庚申待

律仏のまゝに流るる句 西部

戀之詞

恋をこころうりたるをこぼさるるをこぼすは
此處の地名をこぼすをこぼすはこぼすは

戀

夫

妹許

各気

玉章

惚

婦

論

女房

一々道

妹脊

娘

情

媒

薄情

形身

姿鏡

仇

娘

契

内儀

二々心

紅脂

嫁

恨妻

腰元

門立

口紅

妬

妾兒

花姫

難面

爪紅

孕

占

女

花智

待佗

白粉

誓文

訛

入智

袖引

化粧

思

縁忍

密夫

伊達

新枕

俵

帳

鷹

傾城

心中

長枕

幃

禿

戲

遊女

神祈

雜

五二一

子をおほひ 仇く〜 下シタ紐ヒモ解トク 身ミ〜あみ

寐ネ乱ラン髪カミ 垣カキ間マ見ミ おほひの女の住くる 近チカおオ〜り

錦ニシキ木キ 二尺をうりの木と色と小さなき 細ホソ布フ この細布とて

云々しむひあひうさき 緞テン帯オビ 女のけしこころの時 後コウ朝テウ おほひの女は

あつらひと 空ソラ炷タキ あつらひと 衣キ おの別れ

虫ムシのノ印イン いりの虫とて女の乳はぬれを

非意詞

髪カミ 所トコロ縁ヰ 奥おく様さま 櫛くし 三さん縁ヰ 鏡かがみ 枕まくら じじ女にょ

中ちゆう居い 歎なげ 宿しゆく執しやく 夢ゆめ 帯おビ 半はん婢び 乳ちち母ぼ 泪なみだ

干かん詐さ 偽いつはり 後こう家け 下げ女にょ 御ご局きやう 天てん女にょ

早はや乙おと女にょ 瞽こ女にょ 市いち女にょ 賤せん女にょ 学がくのの文ぶん 旅りょのの文ぶん

佛ぶつ日月星と祈る句 禪ぜん

右のふゑは非といふも句ふよりゑに類へ

○無常之詞 并哀傷 二句を一句ともせず

雜

鳥辺野

仇一野

劔の山

三途川

魂結ひ

灰人

灰寄

葬頭河原

白骨

觸體

冥途

龕

極樂

中陰

忌中

忌

幽靈

人魂

追善

追悼

○述懷之詞

拾遺

寡

白髮

三輪組

おちぬ

貧

浪人

眉の霜

佗

病人

苦

継子

苔衣

乞食

世と捨

非述懷詞

愚

賤

山賤

座頭

瞽女

柴戸

尉

翁

草庵

釣翁

賣炭翁

○人倫之詞

祖父

父

兄

姉

我

息子

娘

婿

祖母

母

弟

妹

妻

子

孫

女房

伯父

甥

雜

五十四

舅 夫 親 姪 獨 從弟 伯母 姪 姑

賀 聖賢の名 實名 俗名 僧法師の名

傾城白拍子野郎の名 此介準一とある人

非人倫之詞

帝 皇女 本院 新院 仙洞 太子 宮

親王 門跡 大君 仙人 人間 一門 凡夫

眷屬 二人 三人 大勢 雜兵 衆生 典藥

外科 本道 老若 鍼醫 入道 百性 旦那

敵 かゝ死 俗 不仁 窮 輩 思同志 代官

目代 民 目付 苗主 居 奉行 身 某 私

地頭 門主 橋守 門守 花守 山姫 寒山

拾得 僧坊の宦名 親祖師の名 俗宦名

苗字 守の字 師 經師 佛師 繪師 鑄物師 是等也

者 以者 使者 医者 佛者 是等也 以教一人ありきしん思ふに或人の

卯教多ある
の男

梁	床	亭	家
隣	礎	樓	屋
天井	堀	庇	宿
座	鴨居	椽	菴
鋪	鴨居	小屋	軒
閨	居	博風	書院
玄	棟	爐	廊下
關	夢	壁	寮
部	闕	窓	圍
屋	闕		

○居所之詞
之句をこのけく
一句をこのけく

余ハ准一ある人

居所用 本居不に打裁ゆ

庭	翠簾	外面	村里
暖簾	井戸	筑山	坪の内
土蔵	井筒	泉水	路次
欄干	脊戸	簾	障子
町	簾	障子	鉤簾
			疊戸

余ハ准一ある人

柱 古書不非居所
柱 檜柱 ちとる居ありわらひ

非居所詞

内裡 皇居 御所 非居所 市場 軍場 鞠場 等也
 非居所 千里 邊土 神社 佛閣

○山類之詞 二句を三句に作る
 一句を二句に作る

山 峯 嶽 岨 岫 谷 峠 高根 坂
 尾上 九折 山姥 山姫 瀧 山 関
 葛城 久末の橋 若け

山類用 女山歌に於ては、
 山類用 女山歌に於ては、

岡 嶋 岨 泊瀬 水邊 関

非山類詞

吉野 島群 瀧川 松人 淡路嶋 三島
 越路 仙人 山賤 瀧津川 氷室 山鷹
 山鳥 山桃 龍田川 山梨 蓬が松

余ハ唯一ある也

○衣服之詞 二句を三句に作る
 一句を二句に作る

裳モス 小袖コソデ 衣裳イセウ 繻絆シユバン 白無垢ハクムク 被カキ 袴ハカマ 袴ハカマ 布子ヌノコ

袖ソデ 袂タビ 帷子カケビシ 紙子カミコ 衽フクヒ 襟エリ 褌ツツ 裾スリ 布子ヌノコ

單物ヒトモノ 袖口ソデグチ 浴衣ユカタク 衣紋エモン 産着ウマキ 羽織ハオリ 褌カツキ

此介不新字用の物皆衣類

衣類詞

袈龍セリリヤウ 直垂ヒタシ 狩衣カキユ 素襖スオウ 襦ム 袴ハカマ 奴袴ヌハカマ 袍ホ

大口袴オウカハカマ 襪ハカ 小忌衣コヨモ 白弦シラハ 緋袴ヒハカマ 縷袴ルハカマ

綴ツグ 宿直衣ソクジキ 初ハジメ 淨衣シヨウイ 袈裟カサ 袂衣タビイ 蓑ミ 帶オビ

直衣ナラシ 上下カミシモ 肩衣カタクヌ 絆切バンキ 水旱スイカン 葛袴クヌハカマ 水衣ミツヨモ

十徳ジュツトク 蓑掛スアカケ 直裾ナラシ 居士衣コジイ 立付タテツケ 襟卷エリマキ

掲布カチ 帽子ホウシ 袴初カハサシ 野袴ノハカマ 紙羽カミハ 胸絆ムネバン 股引ムネヒキ

頭巾ツギン 足袋タビ 三尺手拭サンサツテヌケヒ 法被ホウビ 褌ツツ 褌ツツ 喪カハコロモ

道服ミチウケ 羽衣ハネイ 裙袴スソハカマ 禪ゼン 褌ツツ 縷帶ルオビ 藤衣フジイ 喪服モウフク

禊ケシ 素鞆ソウタン 也喪服モウフク 右宦服祭服僧衣喪服礼服等ミナモト

生るる利せらるる物皆非衣類

○水邊之詞
二句を三句はく
一句いも

蛇籠	筏	津	淀	海
水屑	樋	浪	渚	浦
濱荻	笕	沓	沖	濱
海草	流	朝	磯	川
須磨	溝	汐	汀	江
明石	井戸	沼	瀬	池
松島	海士	杜若	洲	澤
	漁火	瀧	浮木	堤
		島	淵	流木
		橋	崎	湊

菖蒲 貝類 釣具 魚の名 水鳥の名
蓮 萍藻

魚の名 船の道具 辛酉の松 蓮 藻

非水邊詞

天の浮橋	室の八島	鵲の橋	意の海
夢の浮橋	難波寺	布曝	蓮の上
白川の関	泪の淵	志賀の松	硯水
月の出汐	軒の玉水	あまの川	天水
		三瀬川	岩船

五十九

水柱 宮屋 干魚 干貝 苗代 田 鹽

○夜分之詞 二句を三句に併せしむ

月 星 曙 宵 暗 篝 蚊 鼠 寐言

寐 枕 軒 炬 時 晚 銀河 明星 日待

七夕 横雲 稻妻 龍灯 鶉川 行燈 初雞

胡狩 寐鳥 燈籠 挑 燭灯 紙燭 燭臺

蠟燭 短檠 手燭 假寐 古眠 夜着 燈明

送火 杖々 深更 化物 妖霊 夜發 辻君

夜多嫁 蚊帳 草の枕 衛士の焼火

星をこゝろふ 吐入 住吉の市 星月夜所名

の時非 追儼 鬼やしの 除夜 大晦日

非夜分詞

鐘 泊 電 礎 虫の聲 三日月出 芦火

今日の月 朝の月 明をるるれ 常燈 昼の月

暮の月 夢現 夢幻 夕月夜 有明入 残月

余ハハられし准くあふん

○食類之詞

食物ト 飲物ト 品替りて 二句去二句はく

○旅躰之詞 各二句去二句はく

門出 餞別 乘掛 暫 蒲團張 駄賃

木賃 跡附 水陳 旅籠屋 出女 駄荷

泊如 宿取 川留

○生類之詞

虫ト 虫ト 鳥ト 鳥ト 獸ト 獸ト 同生類之句去

虫ト 鳥ト 獸ト 鳥ト 獸ト 二句去二句はく

○植物之詞

木ト 木ト 草ト 草ト 同く二句はく

木ト 草ト 竹ト 木ト 二句去二句はく

雑 六十一

不高不低植物

木ノ下ノ草ノ下ノ竹ノ下ノ

藤 萩 欒 茨 荆 藟 葡萄 苜蓿 牡丹

枸杞 山吹 卯花 五加木

○書躰之詞 二句を二句に作る

文字の嚙 書籍 文臺 繪 草紙 筆 硯

墨 頓寫 夏書 手習 朱引 席書 狀

手紙 文 玉章

○火躰之詞 二句を二句に作る

焔 煤 灯 爐 巨燧 火鉢 炭 竈等也

余ハ准〜あ〜ん〜

○風躰之詞 二句を二句に作る

風鈴 扇 團 吹 芦の声 秋の風

余ハ准〜あ〜ん〜

○病躰之詞 二句を二句に作る

病躰之詞 二句を二句に作る

識 成 打 來 廻 小 餘
 湖 猶 浦 ○ 間 込 當
 子 雙 野 遺 振 事 郭
 音 十 虫 上 揚 吹 有 野 樣
 無 登 山 深 明 先
 鳴 殘 止 心 淺 去
 無 上 吳 待 比 跡 指
 波 憂 雲 又 聲 逢 下
 並 蕭 草 迄 和 合 小 更 推

不 今 幾 出 入
 外 程 邊 經 下 時 啞 遠 問 共 張
 止 留 通 外 取 解 鳥 子 路 近 共
 置 追 多 兼 渡 音 小 侘 思 落 押 拆 我
 忘 分 兼 渡 音 小 侘 思 落 押 拆 我
 掛 方 兼 渡 音 小 侘 思 落 押 拆 我
 袖 外 其 初 添 遺 着 解 就
 通 兼 渡 音 小 侘 思 落 押 拆 我
 方 兼 渡 音 小 侘 思 落 押 拆 我
 掛 方 兼 渡 音 小 侘 思 落 押 拆 我

新

蘭ラン蘭ラン香カウ侍シ 雞ケイ卵ランニ雞ケイ頭トウ花カ 紅コウ紅コウ 黒クワ黒クワ蜜ミツ奴ヌ

ゆいふりりても又字の出なり
よふく別吟ふゆい

○賦物之事

祖師貞徳法門ニ夢ニ中ニ垂レ下ニ八ノ枝物ノ事ニ連歌トす
海ノきノ得ル事ニありととニ来ル能レ得ルありとノことトく
我ノ進ルりテ独リのニ獨リ他ノ人ノ花ノのニ念ルありテ八ノ花ノ俳諧ト
之ノ連歌トすニ月ノのニ愛ルありテ八月ノ俳諧ト之ノ連歌ト何トも

六十五

そと席ノのニ糸トとト越ス酒ノゆテちりル流ス八ノ枝物ト
あべニとト正保三年丙戌三月十五日於花咲亭ニ宴ス
らニ新ニ之ニ統ス身トもト世ニにニありテ来ル事ニありテ八ノ枝物トありテ
面白クありテ持ルひテ花ト壺トとトのニ教ス句ノ所ト
まノ字トあリへテひトハハ新ニのニ文字トとト壺トとトのニ字トとトあリふト
何ト思フとトあリへテひトハハ花ト壺トとトあリふトとトあリふト
梅ト何トあリへテひトハハ梅ト壺トとトあリふトとトあリふト

雑

六十六

春の月一 表の二日月一 表の有明一 表季一

以上四也折去夏冬同断

心の月 胸の月 月次の月 真如の月 月草

寺号 山号 付字 三テモ 星月夜 秋の夜をさへあつらひのちの月 月の氷 秋の

たといは生れ十月新の月 星月夜 月の雪霜 氷秋也 月明果 ゆきあり

月 氷秋也 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

月 明果 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

月 明果 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

月 明果 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

月 明果 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

月 明果 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

月 明果 月 明果 月 明果 月 明果 月 明果

○花之部

花四也折二一宛 花の字 三句去 初花 待花

雑

花の都	花浴	中花	花聲	意	花姫	同上	花心
花盛	花見	花れ	花と	花房	花笠	花曇	
花守	花び	花鳥	花車	花桶	花瓶		
花の妻	花生	花軍	花入	花園	花の突		
花の山	花の宴	花の涙	花の姿	花の宿			
花の友	花と友	花の匂	花と高	花結ひ			
花の妹	花の主	花に恋	花の色	花に隠			
花の孫	花の怒	花の落	花の怒	花の唇			

花の都 花浴 中花 花聲 意 花姫 同上 花心

花盛 花見 花れ 花と 花房 花笠 花曇

花守 花び 花鳥 花車 花桶 花瓶

花の妻 花生 花軍 花入 花園 花の突

花の山 花の宴 花の涙 花の姿 花の宿

花の友 花と友 花の匂 花と高 花結ひ

花の妹 花の主 花に恋 花の色 花に隠

花の孫 花の怒 花の落 花の怒 花の唇

花の浪 非水 花の香 非降 花の風情を多くと云ふ花と

花鎮 神祇也 花筐 釈也 花籠 同上 花生の時、非釈

年の花 花の妻 歳且也 正花也 花畠 西かよりの花

花の都 花浴 中花 花聲 意 花姫 同上 花心

花盛 花見 花れ 花と 花房 花笠 花曇

花守 花び 花鳥 花車 花桶 花瓶

花の妻 花生 花軍 花入 花園 花の突

花の山 花の宴 花の涙 花の姿 花の宿

花の友 花と友 花の匂 花と高 花結ひ

花の妹 花の主 花に恋 花の色 花に隠

花の孫 花の怒 花の落 花の怒 花の唇

花の浪 非水 花の香 非降 花の風情を多くと云ふ花と

花鎮 神祇也 花筐 釈也 花籠 同上 花生の時、非釈

年の花 花の妻 歳且也 正花也 花畠 西かよりの花

花の都 花浴 中花 花聲 意 花姫 同上 花心

雑

六十九

花靴 ウツネ 花鯉 カサネ 糸花 花の鳥 カサネ 花衣 ハナエ 作花

紙花 花栄 ハナ 花ののぎ 花の縁 エリ 花乃袖

花の袂 マモト 花真壺 マツボ 紋の花 繪の花 詞の花

花の姿 染物の花 織物の花 花び ハナヒ 借の衣は秋又後のむら

け敷植物に二句の花と云ふ皆春 トハ四花マ

花皿 正花也 檜皿の時 非正花 花神樂 花の香 袖の香 花筵 ハシロ

減くも縁をくハ掛物に二句云
おのふくも縁をくおのふく云云

花の匂 袖の匂 花の散 花散 花の匂ハ非風花
花の吹香ハ風神云

花に付 句同道具不付 六たりの六たりの花
中と花と付る也

花に吉掛付 句同 次

付 花に付 花に様 七句云 様 花

花 花に様 花 花に様 花 花に様

花 花に様 花 花に様 花 花に様

花 花に様 花 花に様 花 花に様

花王ハナノミ 牡丹ボウダン

花の富貴フクキ 同上

花の隠逸インイ 薔トウ

花の兄ケイ 梅ウメ

花の君子クニノミ 蓮レン

花の宰相サイシヤウ 芍薬シャクヤク

六の花ムツノハナ 雪ユキ

勝マツ 蓮レン 花ハナ 海棠タイホウ

山ヤマ 花ハナ 夕ユフ 貞チン

三の花ミツノハナ 霜シラ

末摘スエトク 花ハナ 紅ベニ 萩ハギ

花ハナ うう のの もも 真マコト 菫スズメ

四ヨ の花ハナ 紫陽草シヤウヤウ

花ハナ げげ

紅ベニ のの 異イ 名ナ 花ハナ

いろはあきふれあき

① 家イヘ いとあふとあふれい いと淋シ いとあふりあふれい

はたあきあき いとあふあき いとあふあき いとあふあき

いつとあきあき いとあふあき いとあふあき いとあふあき

いさあきあき いとあふあき いとあふあき いとあふあき

いさあきあき いとあふあき いとあふあき いとあふあき

いさあきあき いとあふあき いとあふあき いとあふあき

いさあきあき いとあふあき いとあふあき いとあふあき

まろしから一きやうくふお口三才二面去

まろしから一体獲二月の声

ままゆふ一紙をきくさうのちくさう

ままゆふ一わりの声

まあう一薦の音わやめとら

まあう一あう二去

みあう一下の由二福三也

みあう一てを二を三を四を五

みけあ一あ二く三あ四い五

みけあ一あ二の三あ四ち五

わ乃一わの二わの三わの四わの五

わ乃一わの二わの三わの四わの五

わが一わが二わが三わが四わが五

わが一わが二わが三わが四わが五

あ一あ二あ三あ四あ五

あ一あ二あ三あ四あ五

あ一あ二あ三あ四あ五

あ一あ二あ三あ四あ五

あ一あ二あ三あ四あ五

あ一あ二あ三あ四あ五

あ一あ二あ三あ四あ五

やしむ七もをふりふおやしくぬひの

やよふ云てふそ二 それらふらぬ

やまあひの油 二葉の油

やまらちあふれ 一葉のたのりき

浦 一葉の ぬ ぬ

ま 一葉の 早 二葉の

ま 一葉の 早 二葉の 眉 一葉の

浦 一葉の と 一葉の 浦 一葉の

浦 一葉の

中 一葉の 大 一葉の 巻 一葉の

中 一葉の 大 一葉の 巻 一葉の

中 一葉の 大 一葉の 巻 一葉の

中 一葉の 大 一葉の 巻 一葉の

や 一葉の ち 一葉の ち 一葉の ち 一葉の

や 一葉の ち 一葉の ち 一葉の ち 一葉の

け 一葉の だ 一葉の だ 一葉の だ 一葉の

け 一葉の だ 一葉の だ 一葉の だ 一葉の

あ 一葉の ら 一葉の ら 一葉の ら 一葉の

あ 一葉の ら 一葉の ら 一葉の ら 一葉の

下 一葉の 知 一葉の の 一葉の 知 一葉の

下 一葉の 知 一葉の の 一葉の 知 一葉の

ふ 一葉の す 一葉の の 一葉の の 一葉の

ふ 一葉の す 一葉の の 一葉の の 一葉の

ゆ 一葉の ー 一葉の ー 一葉の ー 一葉の

ゆ 一葉の ー 一葉の ー 一葉の ー 一葉の

あ 一葉の ー 一葉の ー 一葉の ー 一葉の

あ 一葉の ー 一葉の ー 一葉の ー 一葉の

ゆりふてふを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

ゆりくハ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

ゆりんきん 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

みト 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

二ツ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

一ツ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

あ 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを 二句 ありハ ハ けを

せし 百 せしとすしとせしと 二 百 せし 一 隻のときと
 すしん 七 百 去 為しん 百 すすり 日 形
 する 百 せしとせしとせしと 二 百 百 二 百 去 ぶのぬ 五 種
 すしん 百 百 百 百 百 百 十 百 去 二 百 百 百
 百 一 百 百 去 すすり 二 百 百 七 百 去
 すしん 百 百 すすり 百 百 百 百

一文字 七 百 去

訓音 百 五 百 去

単編 百 二 百 去

二文字 百 去

訓音 百 七 百 去

三の字 百 十の字 百 去

三の字 百 日 形

百 子 百 去

訓音 百 百 去

春 字 百 去

百 去

意の字 四 百 去

月 七 五 百 去

花 四 百 去 花の字 百 去 猿 百 去 海 百 去 水 百 去

涉る草 涉る枝 秋九月十日の 涉る菊 菊といふ

涉る木 初雪 涉る水 氷の凍る

歌ニ音 和歌の分 連歌 俳諧 風雅 文法の本各

侍 役由 種冊 色家 小く 田う 併る 楽ら 各處去

停勢の園 いせ曆 いせ海新 いせ種 いせ肉 終いせ書

いせすり 終 かろの終かちん せんく 終去

東西南北 いせ字訓 音 終去 終方角うられ 終ても 終城 終ても

考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考

中 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考

考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考

考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考

考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考

考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考 考の考

四季

春もや藤おろすお花とまふつひの道
母を先へ一船涼のうら
たはせ木に秋を塗るうらたるお花
かどをくやむとるのらとる香の松

三物

里麻一山六娘ふ紅糸糸袴
胸をくさうなや戸の笑ひ色
月の家一巻づつ巻おこ

のそちのちのそちを巻くさうのひも

貞富

貞逸

文佐

幾句切字のそ

や や ど う よ めり あり あり
さぞ あそ あれ こそ あふ のふ
いさ いざ のを そも 夕道 夕のめ
らん えん せん せん いづ道 いのめ
いづ いづこ けぞな かか あら
きり えん あり くの 早のぬ
あつあつ

或の部

首代の言にひくく男中貞雨
 阿州
 初死くと本意の所さひくく芳雨
 米沢
 多かれは鹿と古も悪くさる一鱗
 全
 長橋八重く船の落れ全
 全
 乞食の口陰くさるる其山
 全
 白南の儒ても此の悪く藤里
 其木
 志つくは軍士も降止る其木

やの部

上州
 中目ひや梅れこち一掌乙牛
 初書やいふく河に流すま一芦遊
 全
 人の秋まきとととやむ軍湖遊
 全
 一雲流のとれれやあれとと桐直
 全
 素きやや并に曲ぬ并ゑ孤遊
 全
 陽をや殊く相る流
 上大家
 八幡山
 東井や秋のまれの所
 所船ト

仍水と追て出るはくくる山
 石州
 落く雲の言にひくく時雨
 全
 湯治を戻りむのちのち万国
 全
 友山の流れをまきくあまの流
 全
 子とあふ園を来てさるる通る五出
 全
 隠居もはひの根りの落れ巴山
 全
 魚舟の片帆懸るまくれか可邑
 全
 ぬぼく一寸まきく柳風

全
 初書よその目くの秋まきとと文竹
 全
 一八や二八ふまきとと竹捷
 吉井
 交うる幕のたさく揚川松且
 全
 あまの舟やか町筋の小舟対面古之
 全
 考るや味敷くこて井戸の流笠雨
 全
 タクまやかまきとと半の丸全
 阿保邑
 秋まきにほつる布や并る扇山
 小林邑
 まきくはひは接接や後る文里

蕙好上州七尾 釣浦 兼の雲よりや枝の香うを透竹
 二ツ三ツ全備 更出 心よりむらうも花や羽枝を魯州
 一舞ハ菊全 九阜 名月や花枝のゆふにひらり 芦葉
 吟の梅風全前 杉雪 昔はた似合ぬ流儀の流す芳州
 新ハ秋風とけハ松風 蒲山や沢辺は清くも瀬の香 永州
 風きて目よりみくの花葉ハ松露 夕暮やたふさぬみぬを 齊州
 落葉ははては花葉とほひ深きハ 芦州 障るが花葉を花の香 東州
 淋くハ雲を流るる花葉ハ 専秀 松中や戸柳の園か屋の香 羊州

柳くハ花葉は花の香 田葉 菊畑や子持の香とけの風 客應
 森瑞の香より花の成りハ 盛山 暮秋や花とけをまけて松の風 文子
 色くハ川を喚ぶる花葉ハ 時交 葉の香や喚びうてをま 長野原
 初身ハ花の中ハ花の香 胡統 涼くハ花死るや花の香 忍行田
 花の香の香より花の香 亭松 煙竹や花の香や花の香 四方寺
 花の香の香より花の香 好時 稲葉の香ハ花の香や花の香 永竹
 花の香の香より花の香 武州永竹 菽入や田舎の香と花の香 竹本
 枝川の曲と花ハ花の香 山色 花の香の香より花の香 上総久利
 新石

中々大陣乃心出さうと改む八幡山 呂竹 弟シふそはむるや江州 近山
 蓮のむつる内中早う形全 好竹 蓮やとれ矢のあつる細小越後大寺 里風
 将うとて蓮の葉に葉陸全 原月 夕多やまをさるる冷ふ船石川 食素兄
 仍事のあつたひ況清らうを新宿 芦月 初林やせに接しれぬ蔭陰全 芦洲
 白面に才かまてる流う形全喜水改 曉山 子乙女や日あくの旅かえ全 羨鳥
 ちかみ林ゆふと地を死全 柳思 我くうも水のそらちや形あめ上州高井 其國
 田のうとくはあはくく全 柳糸 お傘の時あめくや下屋秩父野止 主原
 吸符ふあふと好む形上手邑 泉志 夜時のた照る月やを地灯上郷 月峰

由り流の二才の星去る四間 管竹 月や日や清りう夫後のま南郷三ノ間 白翁
 迷ふはあふ吐る葉全 長根 桐 白ひきかきまをふとふ千代見改 三聲
 所やめあふ形お葉の全黒熊 一桐 白ひきかきまをふとふ千代見改 三聲
 入おあふを付くる形宇貫 雀昌 群うて流と破ひる串崎氏 虎山
 時くく船のあつる葉全 川龍 初月や古人の付く人金谷河 友里
 湯や隣の小舟上郷村 可水 藤をむねと形あかや柱志月舎 万壺
 色かきまの花表本の形日野印地 山笑 初夜や葉葉と葉ぬる今全 友之
 葉のあふは全 苦元 葉葉や風吹くはれも付く素石

今春の晴城化... 野上 泰山 三膳や零の... 二月其潮
 名月や... 芦膳 名月や... 芦膳 名月や... 芦膳
 松浦 初言や... 松浦 初言や... 松浦 初言や... 松浦
 岸松 解... 岸松 解... 岸松 解... 岸松 解... 岸松
 松川 夕... 松川 夕... 松川 夕... 松川 夕... 松川
 保水 吹... 保水 吹... 保水 吹... 保水 吹... 保水
 初交 初言や... 初交 初言や... 初交 初言や... 初交 初言や... 初交
 笠雨 是... 笠雨 是... 笠雨 是... 笠雨 是... 笠雨
 江戶 貞陸 江戶 貞陸 江戶 貞陸 江戶 貞陸 江戶 貞陸
 紅古坊 芦玉 紅古坊 芦玉 紅古坊 芦玉 紅古坊 芦玉 紅古坊 芦玉

西平井 周盈 七... 西平井 周盈 七... 西平井 周盈 七... 西平井 周盈 七... 西平井 周盈 七...
 馬鹿 里川 六... 馬鹿 里川 六... 馬鹿 里川 六... 馬鹿 里川 六... 馬鹿 里川 六...
 岩井 淵水 お... 岩井 淵水 お... 岩井 淵水 お... 岩井 淵水 お... 岩井 淵水 お...
 塩川 笠率 於... 塩川 笠率 於... 塩川 笠率 於... 塩川 笠率 於... 塩川 笠率 於...
 笠川 百... 笠川 百... 笠川 百... 笠川 百... 笠川 百...
 下大塚 梅里 紫... 下大塚 梅里 紫... 下大塚 梅里 紫... 下大塚 梅里 紫... 下大塚 梅里 紫...
 且山 是... 且山 是... 且山 是... 且山 是... 且山 是...
 山慰 門... 山慰 門... 山慰 門... 山慰 門... 山慰 門...
 青鳩 青鳩 青鳩 青鳩 青鳩

あはれおしる白心 枯樺 東里
胡麻の形はも涼 一もあはれ 雞歌
言ふあはれな 萩の後 友之
風すくぬく 言ふ 之福の表 芦魚

たり

新田ふ久と竹久 八幡山 湖雲
ひまの帆は海の中 杉 吉井 復児
あはれ

待をよむ雪の日に果をうり 深沢 松岸
梅の風園に恨をうり 舎牛
雪閉て扇の風もたう 三宅 芦夕

たり

尻すくぬく 言ふ 桃井氏 玄燈巻
ひまもすく 言ふ 八幡山 万壺
一所の雪はあはれ 吉井 扇志
あはれ 言ふ 阿州 嵐睡

さうとぬく 言ふ 八幡山 山稔
乃法を心に 言ふ 傘 乃と 和周
涼くさぬ 言ふ 萩 松月

いこ

茶はよ 言ふ 八幡山 秀竹
をぬく 言ふ
菊と閑人 言ふ 萩 秋空
茶の香 言ふ 萩 幸成

たり

星合れ 言ふ 萩 習谷
吹て来 言ふ 萩 松石
あはれ 言ふ

たり

あはれ 言ふ 萩 素牛

の

高き山 芳柳

有隣

原翠

雪

里鶴

笠考

よ

高き山 月

て

東宇

山

の

延山

春且

柳

山 賞

而醒

壽保

切字

負雨

魚

過改

豊東

之

言

半羅

早ぬ

山

竹倭

トカ

柯

九十一

四季

在野 枕流

社の灯乃くさきゆり 松月杜川
一樹の月もさかたて 漢あふ
後松巖のくさきゆり 松月杜川
そよふとも松の海法師の歌

全

松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川

全

松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川

全

松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川

上州岩井

全

松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川

全

松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川
松の海法師の歌 松月杜川

全

全

松の海法師の歌 松月杜川

松の海法師の歌 松月杜川

口明て蛤成る汐下りの船 芦邑
惟子の名をいれやまゝあはれ
まをむくく物う蓄椒
此きて陳子もあましき後

全

上州平岡

伊勢をくく七十の由柿 貞川
崎崎やまをくくあはれ古社
秋朝を看くもあましき後

重く入人の中を元を干溜 芦管

惟子と名や城のまをくく
目もくにくくまをくく後の月
手の名を自をいれまをくく後

全

上州平岡

小山のまをくくたはし初 崎 貞陸
あましき後まをくくまをくく
一はくまをくく秋やまをくく

道方の城もき方やまをくく

全

上州平岡

まをくく相もくくまをくく
園のまをくく消えまをくく
秋のまをくくまをくくまをくく
まをくくまをくくまをくく

全

上州平岡

川をくく相もくくまをくく

けはくくまをくくまをくく

全

上州平岡

まをくく相もくくまをくく
まをくくまをくくまをくく
まをくくまをくくまをくく
まをくくまをくくまをくく

全

上州平岡

川をくく相もくくまをくく

句

句

善きもの振袖もりの由種頃
種は昔のころの金さるの世に
ゆきよき舟とてふれりし歌

全

上州下州

松のねらのも振袖も思ふ声泣
流るる涙はたやがんとて
秋中のまよふ天うらぬ後の月
るさの頃には清の秋は

白くも霞きく...蓮の心
淋しい色なき...
初夢やめらるる家の秋しき

全

赤八穂

あはれもあはれもあはれも
伊勢うらむ松のうらむ松の松
初夢は...
はるる春の春の春の春の春

山

全

南窓亭

松の群う女飛鳥の山芦相
白ふや葉舟のかげ松松松
夕日秋松へ振や若くうら
秋引く松をそまや村を

全

阿州

なまねとて思ふ春のうらむ魚干
思ふくおとくかやそくの峰

全

南見亭

まゆの其ま...まのなめく...
まゆのまゆのまゆのまゆのまゆ
秋夕て...の...
ありありなれも松のまゆのまゆ

全

誰いひを...
松の尻を...
田植うれ

九十五

句

虫の香に本系移る月夜外
香の口や懐の移る手一合

三物

拾花甫

まゝくてもおぼろしき海と波の聲は貞里
入のハシは月八夜をさす
夏雲は所肩とどまる懐伴

全

杉敷の壁を墨の別遣外
初雪のや雪のよつ一は雪を

三物

祖堂

いつく入るもあまのやまに杉戸
世かたにらん霧のひすお
秋と雪の地もよるに雪降く

全

波瀾はまゝいさゝか夜は杉林波光

森酒は癖子成て凍る

水窓の月を志子の来を帯

全

上州八幡山

おぼろしき金屋にうつる夏畑桐船
初雪の移るも雪の類枝
氷の口や雪のよつ一は雪を

全

初雪のや雪のよつ一は雪を

秋の酒の如の歌と吹雪

一籠の雪は紅雲れめきて

全

赤八幡山

陽春のよつ一は雪を
初雪の移るも雪の類枝
氷の口や雪のよつ一は雪を

全

うき下をみぬを桃の園今 芦雁
於葱後乳母うかいや
茶のあやみおしと茶をた

今

あかひに曲りし結今 初あり 芦笙
体へてまきの形ふ地冷
月とわ顔向煙吹くも障今

今

山家の片くれ初るや秋の月今 弘山
秋つけるにたまふ秋の虫
あまの秋は伝承とあやむ

今

二人来てむらうは秋の影茶今 桐栄
塔の間にまやくあやむ入地
てふくとまのるの筋まで

今

おあやあそりしうらなふ系塩平 松閣

意にま原ふ夏の湯 柳
仲の船をたえわうに揺るて

歌僊

風志

又度よれひるをさるま田川
あそてあつ牛の角に初蝶 貞山
帘いし行人に無かりく 常仙

舟と漕ぎあそるのやうに今

撥算のふらふら今 舟の秋をまう今 伝承

哥仙

二ツツアをと熟味の煙川 友里
秋冬をまき暁のやう 芦管
頼れあもあそ藤のま後て 芦邑

あつらひにたつた鼻紙の帯 有佐

津路橋も海濱ふりせは月貞屋

帯のゆふも形紙の型 執筆

あかていふまの借の袋 貞山

世も多きに苗の一人 風志

あつらひとて現にまき 有佐

かぶら 貞の泪 常仙

日笠に橋へくると 貞屋

絵巻りく村の子々 貞国

風多吹にのぼると月もわん 芦管

笑いと斗ねるあつたれ 友里

振向をふせ 貞国

女の志 友里

あつらひとて現にまき 有佐

かぶら 貞の泪 常仙

日笠に橋へくると 貞屋

柏うすの香かしの風 貞山

川原の骨かきとて 風志

百中あるは 有佐

日笠のゆふも形紙の型 常仙

松のたけ 貞屋

あつらひとて現にまき 有佐

月もわん 貞山

絵巻りの形も 風志

柏うすの香かしの風 貞国

川原の骨かきとて 貞屋

百中あるは 友里

日笠のゆふも形紙の型 貞国

松のたけ 芦管

あつらひとて現にまき 友里

月もわん 芦管

絵巻りの形も 芦管

二人葡萄ふ花邑形の云常仙

面を以て結まはははの云貞屋

生んまかて懸垂とさそ也有佐

涿川も心ひきらせは波の尖貞山

結下の新自在ふ多後風志

ちんを以て種をばすもふ山常仙

身は韓紙とぬる何様貞屋

後酒ふゆれをそ何古かすこ有佐

古美町へあつてゆゆ中貞国

はくくともを結まはははの云芦管

夏に流るる大いゆまの友里

掖羞の果りまをさる又枕貞国

彼西りのしりうきさ芦邑

ん結まをさるてすもふ友里

ゆまをまをさるてすもふ芦管

はくくともを結まはははの云

塩と湯り合塩田ふ新常仙

月の名よそそ地くの思有風志

味よあつふ塩の發貞山

考^教理こも尻の捲し如也貞屋

くくともをねるゆゆ有佐

赤俣もカ通されたるを新常仙

以身に糸の結る平松風志

若れゆふゆをさすもむの友貞山

六日の月

相の事

面の事

考^ワ柳食の事

まをゆゆ

彩瀟や紙瀟の町

浜て初る

を量るる

後如との六尺と信々の名と仍

秋とぬの初り入りの候一徳

探幽の香巻と世の巻は月

秋と風のかかり人止芦翁

名玉の村疆て浦の曲とむつ

冬くやハ秋のたぐと一徳

川舟のしりし徳と入のり

秋葉のほも能る阜而芦翁

る好の瑞派とくうと幸と且山

日ハきくんと海極余周賀

浦風ふり帯ねをりし巻は芦夕

世の中くく巻は文里

妻に一枝捲くをく候て芦遊

此を思ハ由乃秋之貞陸

徳島にわたりし徳と湖雲

肝を兵かりし秋者貞宿

冬入りの山勢の峻と仍

星の光もも映る乃一徳

世渡のしりし秋の巻は併

唯捲ハ糸の米搦

活巻との巻と入の巻は芦翁

名子巻くやれ巻は徳と

月と不候とくはひ明生

田舎巻くは秋の巻は一徳

山と入りの山勢と西

流とくやれ巻は鶴山

内袖の糸巻と巻は東川

彼を捲くは巻は芦汶

巻と入りの巻は周賀

名子巻くは巻は貞川

作巻は巻と巻は貞隣

田舎巻くは巻は湖遊

歌
おのこま澄せしむる掬う

時と知ふたむに因 兩

ふの判とはみかきるが合者 芦翁

あゝかゝれ 意ふ人あゝ 一 德

秋もふせしむる花の山 若翁

運指すのしむかど 果翁

哥 仙

上州舟連

おとせよまふ裏へあゝむきや 貞笠

打水にひくも花くそ 妙子 山 琇

獅子は杖代の海、南を寄 古 夕

やととそと 徳翁の 影もか 文 里

あゝあゝ 徳翁の 影もか 目 山

やととそと 紫く 幸の 妙 貞 賀

七閑をそと 持の 妙 貞 笠

哥 仙

おとせよまふ裏へあゝむきや 貞笠

怪子とりの 破 磯の 仇 貞 山

丸合何 義うしんれ 不 徳 好 和

意ふしとく 為と 附て 出ん 松 仙

ふ月の 氣の 碎きる 後 麓 里 川

棒の あゝ人の 低心 徳 笹 執 筆

秋草の 笠 衣 飛 不 産 淵 水

仕立の 帯 け 場を 結 せむ 里 水

かつろくし 歌 是 時 子 着 へ 是 松 鳥

勢の すしむ 徳 翁の 意 貞 翁

吹うしんれ 不 徳 翁の 意 貞 翁

波も 四く 小 持 貞 翁

蓋と 洗し せんも ばり 貞 雨

意 根 義 翁の 意 貞 玉

杉 柱と せん 秋の 意 貞 翁

意 翁の 意 貞 翁

大名の 意 貞 翁

夕影をすまは年の芳ありし里水

葉と葉にみぎさの 貞橘

あやも昔の心さるるの香桐翠

百姓の猶ふさるる秋の風芦翁

うみさの海は袋入りの川

糸揚婆の笑顔見ふ貞雨

蝶の香を結とさるる里霍

室菖の足代前に初くれ貞玉

日のとも思へて程りも秋淵水

竹園で睡みの香る冬令貞國

名 春合とかなるるの清瀬れ桐翠

名 子乙女の二人は春の畔に貞雨

何れか入るる心も後揚里霍

魁の影とよる神鳴貞鶴

丸葉の珠と扱せし人も玉淵柳檀方は徳を傳へ守のま貞玉

吐よるは海よりまき松仙

風の多し海の名中 芦翁

見及にむの心も松鳥

春をも二春の海にわがの國 貞國

位保姫死の後に程冊琴山

妻成りてまき里 貞橘

半哥仙

半哥仙

濡る鳴葉うらや地のかり夜木春

花分りの眼や山竹九良 貞雨

百姓の地は陰る川 物文耕

尻むさうの死るまきの上 芦翁

生疏の酒屋にふつとをば 貞里

春花のまき人まき百千も

捨りし糸並流道 禪木春

任うぐく終疏まき 貞雨

今初に考ふるよとて月足客 文耕 女引る丸に接の接はる貞里 秋凡れ吹ふ付ても峠の里 文耕 お見にいもぬ生の心程 貞里 の跡のそを流ひ一紙小判 木春 瘡の何けて才町も良 文耕 るをよに介するやうなる杜松 貞里 採不うくく堀半こふ木春	流やうる月と採行は道門 ありのやうとがう時契 芦翁 恋それの屋をよめて秋と知 此ふといふ草と何くう 貞菊 里足ぬれぬの拵お出る 芦翁 市に出る喧嘩の中は半採て 長生坊、まを良客へうる 貞菊
---	--

とうかる登いまをうくまの巻 貞里 字治志れやうくまい入相 文耕 母牛虚病とすて老若の巻 木春 秋目一八情い白を流の袖 貞里 月秋に射表の後かを一 木春 蕨の拵小柳一つまき文耕	松林の尻に月を流成し 河崎喜次彌子合なる 芦翁 お後う推を教う秋のうれ 貞菊 おのふとく虎堂うお巻 翁小柳の尾も老若の巻 藤原若翁 こみつむいよこまき文耕
---	---

半哥仙

半哥仙

熊笹も水茶とあうぬる月を
 芦泰

此のを教てある時比、
 虎山

ちると虫とをましく、蟬鳴 芦翁

ゆつそつと市の夕暮 柳子流

箕あまたすの夜をよみ 芦泰

こけ月小た合よりき 小蓋

相棋の暁心秋の夜 芦翁

淋しうのりやとを降る村お祭

憂いと静かに寝へこの夜

人妻の夢とつうして旅 夜 芦泰

柳のこすを揺ふ秋風 貞山

月もさや大蓋にまじりし 芦舟

穂のまきのさし合 錦山

あまの拍子もまは 柳圓山

あつ渚は目のゆく 貞雨

おまをてわがたれか 貞山

竹輿とらぬを送る 貞山

まをて産をこころを 錦山

をたか法をる 瘧のま髪

女々あんの目と涙をばけしうを

やろおれも地衣をたふ 芦翁

羽卵に茶の湯をたをむの由

並好り月あるも 芦泰

うのりい、おとぬるる 射花 芦泰

祿直の秋はくえの青骨 芦翁

釣舟の舟にかよふ松の声

あめの中に横割る 芦舟

舌風を車にまきて 貞雨

おてをるもまき月 圓山

穢人の地獄もまは 荒山

まをてぬりて入る 貞山

休けうみの霧をたけり 芦舟

まをれば 錦山

荒法所をたきまのりし 貞雨

世襲の足しをる少陸電芦翁

半哥仙

祿常の賜れそ今や杜る圓山

破弱不破入徒の虫下貞山

判刀の徳を奉りくと収付天貞賀

掃除仕意へ深き文章桃里

冬田月に係子もきくは虎山

指紋残して目撃をくうる貞雨

ふりくもりの際く山門圓山

半哥仙

かそ今世に深きは徳の忠栄松

ふ徳きんれ陸電くれ芦翁

悦多あぬ心の様より系世を

葵くちり村布の祿栄松

まろくし一極臨てきぬは連

目次見ぬ秋と下戸の足跡芦翁

神風ぞ世のそけき様しす貞山

傘うし傘し始の宿の圓山

のそ名る田ふまじ世の聲運て桃里

白ふもあしは中代もる松貞賀

むらぶの老徳のい有る山貞雨

ぬと筋の意もすくは虎山

文藝系志今のまぬるなき貞賀

けする増りしうふ夕月桃里

逢て暮る鏡子とこれ満ちけり

豊花の煙いとの指次栄松

あまあは美ぬうつものらう

お角切つてかり又馬小芦翁

徳の油うら風月

魚月食は飛脚もり系栄松

あふふと遠士の協のまふら

菴と遠るを月を名じ芦翁

西国出交も袋一人お守りえ
ありかー茶後の世中
八巻の巻終に多く立時の
かき下との巻の初巻
神風ももまきの松の風
事もスーとまうはて傳
まね起てまはし改と機札發
學く下も海舟生の寄

初巻のそおとあんなる寄書
ま向の獅子の床にかりつ
中飛車に打ちまわれた縁と抱
はるん粉條と医所の口癖
法不れ家計にまかすま
ぬらつと山の夏の秋の秋
一哲かまへまきのと勢の声
品川とま人のめ・確

華さへ旭に葉物靴をんやと先貞屋
袖のひり羽織交うとまう貞山

半哥仙

上野山名
菊水堂遺

常かゆう鶴の殺もあつ古橋
まゑるそと丸の居に泥盆菊要
川舟のそく成るお枕のんそ水荷
茶と入あかり下と飲と水巴
二三里まき若にあらぬ有秋木延

橋の音あつひも袖の珠各
火男うつと髪をそと

首尾

三平本

猿啼と流流しはあおるる臥牛
まゑるそと鶴とけぬ園の戸芦翁
流の巻を打たれ打たれ影うま
先はれつと輪と棋の舎臥牛

冬後の冷むがのむにか来水亀
 大門とまきくと秋の空の中へ菊籠
 酒のまろくにほ古志のけき水羽
 眼とゆり切捨てまきとりの菊山
 半のきりてある藪の傍水荷
 掃人のまきとるく橋邊清水延
 汗とがく前後ハ解 柳葉 菊要
 咲れて菊籠の門の窓をく芦橋
 鹿の肩も丸うに鳥 鴨子 蓮
 法酒のむれとて本穂の葵 古八翁
 鹿に暮れぬ葉の継ぐ 野牛
 山敷にけりす呪の息 芦籠
 袴も羽と伸長 采るるを野牛

かんやうと又のきんひき云水巴

長白

素氏

頼常かゝる大も吼の介 水亀
 和あるまきとるまきと相傳 菊籠
 むのまきとるまきと相傳 水羽
 手紙とまきとるまきと 閑山

長格子要三松も葉 野牛 徳山
 清口はききううまきと 野牛
 岩筋にまきとるまきと 野牛
 猫のまきとるまきと 野牛
 かくはききとるまきと 野牛

裏白

お杉。目まきとるまきと

松栢ふまきとるまきとるまきとるまきと

一

むてふ仙氣の流のそ枝端
仲や風入のふらそを時うら

はひ響とるもさう松柳之中

そに人夢利く初春の貞屋
鶴や己らまよと懐松

水仙の流のそ枝の流
奉納

そよそと津のそ枝の流

江戸本石町十軒店萬發堂

英大助
同平吉

蔵板非書目録

○類題之部

俳諧幾句五百題

春秋齋白雄房撰

小本二冊

同

新五百題

田喜庵護物撰

中本二冊

同

新々五百題

全撰

一冊

同

名所千題集

全撰

全三冊

同

今人東風流

洞海舎涼谷撰
一具庵一具校

全二冊

書目

同

十方句集

全 校

全四冊

同

續故人五百題

一具庵 具撰

全二冊

同

類聚

八采園寥松撰

全二冊

俳諧新發句類聚

全 撰

全二冊

俳諧發句類題

全 撰

全二冊

同

古今撰

蘇門壘守撰

中本二冊

四季發句帳

印子十五三 艸丸大人輯

全一冊

俳諧發句新類題

六合 力里輯

中本二冊

○句集之部

嵐雪句集

一 稱子峯集

全二冊

其角句集

坎窩久藏撰

全二冊

蓼太句集

全六冊

吏登句集

全一冊

書目

巢北句集

全一冊

完来叢句集

全二冊

梅翁宗因叢句集

全二冊

太無叢句集

存義叢句集

獅子眠叢句集

柳在叢句集

秋林瓶

中斐州九集

鳥里句集

鳥句の集

護物七部集

小本二冊

○李寄之部

意の梨

華雪庵北元著

小本二冊

俳諧手挑燈

一名俳諧初心手引草

小本二冊

同掌中小本

全一冊

書目

俳諧四季名寄 季末天候のあり、且名五と内移人

俳諧袖鏡 寸珍二冊

季寄便覽 一枚撮

のしある 横本一冊

俳諧通言 小本一冊

文之部

新編俳諧文集 五時よりある、文とある 全三冊

由之規 表能潜定、変体

於中その外を物能計の考化の存を、之を存し、其を

俳諧鶴 自初編今月保延百八十三編

○掌中寸珍物 後数より自今始

掌中五百題初編 集州 初編

同 集州 二編

書司

三編

芭蕉叢句集

集州三編

其角叢句集初編

集州四編

二編

集州六編

二編

集州五編

盧雪叢句集初編

集州八編

二編

集州九編

同 乙田叢句集

集州一編

同 蓼太叢句集初編

集州十一編

二編

集州十二編

同 新五百題初編

集州十三編

二編

集州十四編

三編

集州十五編

同 古今撰

集州十六編

猶追々出刻

○假名遣物目錄

万葉用字格 春登上人撰

心葉集とみすきよのすそ十巻の中より正徳とすはゆき巻
何々の生ふとせり

尚古假字格 山上明雨大人撰 中 拾遺冊

今 假字格 島井八穂大人撰 全 一冊

古くはしをうきとをば一目にす夏回

新照假字格 長野美波前大人撰 全 一冊

三家の假遣 新校 小本一冊

意便假字格 春登上人撰 拾遺冊

